



# 怒濤の「粘り」! 2度のリードを逆転!!

## 駒澤大学3-2中京大学

この試合2度目の同点ゴールを決める大塚  
(撮影:近藤信太郎)

### 6年ぶり「王者駒大」の凱歌!

1週間に渡る長い戦いが終わった。総理大臣杯を手にした選手たちからは疲れを感じさせない満面の笑みが見られた。酒井の「サイコーです!」という言葉からも読み取れる。決勝は藁、林堂という攻守の要を欠いた駒大。一方の中京大は駒大同様に堅守を売りに決勝へ勝ち進んだ。

17分にディフェンスの隙をつかれて失点。すると、駒大も負けじと24分に金久保がPKを決め、同点に追いつく。その後は、両校とも連戦の疲れが見られないほどの激しい攻防を見せ、前半を1-1で折り返す。

後半に入ると、65分に中村に長い距離のFKを決められ再びリードを許す。ここから中京大は持ち味のディフェンス力を生かし守りに入り、駒大は大苦戦を強いられる。だが、ここで先月の大巨杯予選でもチームを救った大塚が再び輝いた。

74分に投入されると90分には、「酒井が絶対勝つと信じていた」という酒井のヘディングのそらしにいち早く反応し、左足を振りぬくとゴール中央に吸い込まれ、2度目の同点に追いつき、このまま延長へ突入。

1週間で4試合目。延長に入ると駒大の体力は限界が近づく。各選手が「優勝したい」という気力だけで動くような感じだった。

104分、途中出場の湯澤が、左サイドから中へ切れ込むと思いきりよく右足を振りぬく。ボールはゴール右へ突き刺さり、この試合初めてのリードを奪った。秋田監督も「とにかく1回打てと言った。今日決めたことで、シュートとドリブルの使い分けを身につけたのなら、プレーの幅はもっと広がってくる」と今日のゴールでさらなる成長を期待。湯澤は「今日はゴールがほしかった。今までシュートの意識は薄かったが、今日は意識できていた」とゴールの貪欲さを身につけたドリブラーは語った。

試合は、そのまま終了。大会前にも「新たな歴史を築きたい」と話した岡田誠史コーチが語ったように駒大に強豪への新時代が到来した。

さらに、9月には大学代表として天皇杯に挑む権利も得た。試合後に話を聞いた選手たちからは「プロを倒したい」と、意気込んだ。後期リーグもこの勢いで明大に勝ち点差7からの猛チャージを仕掛けたい。だが、秋田監督は「20から30メートルのパスとフィニッシュの精度はまだまだ」と課題を口に。さらに、夏場には毎年恒例の走りこみが待っている。天皇杯の戦いが始まる後期のスタートには、一段とたくましい駒大サッカーが見られるはずだ。  
(東條貴史)

7月10日 大阪長居スタジアム 14:00K.O	
(1-1) (1-1) 駒大 3 (0-0) 2 中京大 (1-0)	
得点者 (アシスト)	
[駒]26分:金久保(PK)、90分:大塚(酒井)、104分:湯澤(濱田) [中]17分:斎藤(佐藤)、65分:中村	
<b>KOMAZAWA</b> GK①岡 大生(4) DF②酒井隆介(4) MF⑥金 正也(4) DF⑦山崎敏吉(3) DF⑩濱田 宙(3) MF⑮笠井雄太(4) MF⑳碓井鉄平(1) (80分③亀井秀将(4)) MF⑦金久保 彩(4) MF⑩田中信也(4) (69分①湯澤洋介(2)) FW②肝付将臣(3) (74分②大塚涼太(4)) FW⑫山本大貴(1) S U B GK②井指隆範(4) MF⑨宮城雅史(2) MF⑧奥村 情(2) FW⑳大園祥太(3) MANAGER 秋田浩一	<b>CHUKYO</b> GK⑦石川湧也(2) DF⑧小川真司(3) DF④中田智久(3) DF③加藤駿一(3) DF⑩須崎恭平(1) (105分⑦石原 卓(2)) MF⑮吉田匡孝(3) (58分⑩中村亮太(2)) MF②森本 良(4) MF⑩内田 渉(4) (63分⑩藤牧祥吾(3)) MF⑧星野 悟(4) MF⑥佐藤和弘(2) FW⑩佐藤和樹(4) S U B GK①大久保隆一郎(4) DF⑨小木曾裕樹(2) MF⑬新里 亮(2) FW②畑 直樹(1) MANAGER 西ヶ谷隆之
[シュート]15:12[GK]13:14 [CK] 6:2 [直接FK]11:26 [間接FK] 2:7 [主審]吉田哲朗 [観衆]約2500人	
警告(C)/退場(S)	
[駒]金久保 彩(C) [筑]森本 良 (C) ※データの左側が駒大	